



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

ロンドン日本人学校だより 9

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

9月2日発行 ロンドン日本人学校
令和元年度 第5号 2.9.2019

「戦争から考える」

-第2学期始業式での話より-

校長 石山 秀樹



2学期が始まり、赤レンガの校舎にも子どもたちの元気な声に戻ってきました。本校では今学期50名の転入生を迎え、339名での

新たなスタートとなりました。本校の二大行事の一つである文化祭をはじめ、現地校交流などの行事、そしてもちろん、毎日の授業での学習、学校生活でも、合い言葉「自立・貢献」を足がかりに、自分から何かに「挑戦」することを忘れずに力を高めてほしいと願っています。

2学期の始業式では、私から2学期の学校での取組の話に加え、「戦争から考える」という話をしましたので、以下に紹介します。

…皆さんは、この夏休み中の8月15日という日は、どんな日であるか知っていますか。8月15日は、日本では「終戦記念日」…今から74年前のこの日、戦争をしていた日本が負け、戦争が終わりになった日です。日本は中国大陸、東南アジア、太平洋といった広い範囲で戦争をし、現在のマレーシア、シンガポール、ミャンマーなどでは、私たちが現在住んでいるこのイギリスとも戦いました。私は毎年8月には、この日本が経験した戦争のことを考える日をつくっています。ロンドンに住んでいる今年、私は Imperial War Museum(帝国戦争博物館)に行きました。中学部1年生の皆さんは、近々校外学習でここを訪れます。ここには、わずかながら旧日本軍の展示もあります。説明はもちろん英文ですが、そこになんと書かれてあるか、英語があまり得意ではない人にもぜひ読み取ってほしいと思っています。

私はもちろん、戦争など経験したことはありません。私の両親にとっても子供の頃の話です。戦争の話など、怖いから聞きたくないな、と思う人もいるでしょう。それでも、私は皆さんが日本の戦争について知るべきだと考える理由は二つあります。一つは、学校教育目標にある「国際社会を生き抜く」ために、皆さん自身が自分の国のこと

をきちんと語れるようになることが必要だと考えるからです。二つ目の理由は、同じ失敗を繰り返さないために、どのようなやり方が必要なのか、それを考え、選択できるようになってもらいたいと考えるからです。

一つ目の理由について、例えば、ロンドンに住んでいてイギリスの人から「日本はどんな国ですか」と聞かれたら皆さんは何と答えますか。日本で暮らしていると、あまり「日本て何だろう」などと考えることはないかもしれませんが、ここロンドンのような日本にとっての外国で暮らしていると、「日本ではこうなのに、なぜイギリスは…」と感ずることもあるでしょう。皆さんが将来、社会で活躍するときには、日本にとっての外国や人との関わりは欠かせません。そのとき、お互いの言葉、文化、考え方に理解が無ければ、信頼関係は生まれず、仕事にもなりません。私は、信頼の元となるこの「理解」の中に、相手についての理解だけでなく自分自身についての理解、自分の生まれ育った土地や国の理解…そこにはもちろん、戦争の歴史も含まれると考えています。ロンドンに暮らす皆さんには、英語を学ぶことに加え、日本とイギリス両方の視点で物事をとらえ、考えることができるチャンスがあります。ぜひ「日本て何だろう」と考えてほしいと思います。

二つ目の理由について。戦争は、ある問題を解決し、目的を達成するための手段です。その手段のために多くの物や人、人生を破壊し、多くの人を不幸にします。現代では日本が戦った時のような大掛かりな戦争は行われなくなってきましたが、人と人との争いごとが無くならないのと同様に、国同士や地域同士の争いや紛争が無くなることはないでしょう。では、戦争にまでならないように問題を解決するには、どのような選択が必要だったのか。将来を担う皆さんには、ぜひ問題解決の方法を考え、選択し、決定できる力を身に付けてほしいと願っています。過去の戦争は、そのためにも知るべき歴史なのです。

教職員の異動について

新しく英会話講師として

Oliver Hill 先生、Lewis Roden 先生の2名が着任しました。どうぞよろしくお願ひいたします。

自然を感じた3日間



6月21日(金)から2泊3日で自然体験教室に行ってきました。そこで子どもたちは大自然を感じるとともに、友達との絆をより一層

深めました。

8つのアクティビティを通して、活動を楽しむことはもちろん、友達と協力する喜びを実感することができました。諦めそうになっても、友達の声援が力になり、最後までやり遂げることができたのだと思います。互いに声をかけ合い、友達を気遣いながら楽しく活動する姿は、見ていて気持ちの良いものでした。森林の中でのアクティビティ、朝日を浴びながらのラジオ体操、夕日に雲がたなびいているきれいな景色など、どれも子どもたちの心に残ったことでしょう。

この自然体験教室を通して、1人でできないことでも友達となら達成できたり、自然のすばらしさを肌で感じたりしました。ここで学んだ経験を今後の生活にも生かしてほしいと思います。

楽しく真剣に行った水泳学習



6月26日から毎週水曜日、3日間にわたり、1・2年生合同の水泳学習を行いました。1・2年生の目標は「水遊びを通して、水に慣れ親しむこと」です。「オタマジャクシ」「メダカ」「トビウオ」「イルカ」の4つのコースに分かれ、それぞれのめあてに向かって取り組みました。

最初は、顔に水がかかるのを嫌がる子どももいましたが、「ボールすくい」「電車ごっこ」などの水遊びを通して徐々に水に慣れ、3回目の学習では、顔を水につけられるようになりました。また、だるまの形になって浮いたり、けのびの姿勢で浮いたりすることができるようになった子どももいました。水泳経験のあるグループでは、クロールを何本も泳いだり、ターンを覚え、少し長い距離を泳いだりしました。3回目の学習のあと「たくさん泳げた人？」と聞くと、皆が勢いよく手を挙げていました。事故やけがもなく、楽しく真剣に取り組んだ水泳学習となりました。

最初は、顔に水がかかるのを嫌がる子どももいましたが、「ボールすくい」「電車ごっこ」などの水遊びを通して徐々に水に慣れ、3回目の学習では、顔を水につけられるようになりました。また、だるまの形になって浮いたり、けのびの姿勢で浮いたりすることができるようになった子どももいました。水泳経験のあるグループでは、クロールを何本も泳いだり、ターンを覚え、少し長い距離を泳いだりしました。3回目の学習のあと「たくさん泳げた人？」と聞くと、皆が勢いよく手を挙げていました。事故やけがもなく、楽しく真剣に取り組んだ水泳学習となりました。

第43回ロンドン日本人学校運動会!



7月13日(土)第43回ロンドン日本人学校運動会を行いました。各学年の徒競走では、小学部1年生の可愛らしい姿に始まり、中学部3年生の大迫力のランニングまで、児童生徒の成長過程を見ることができ

ました。まさに、ロンドン日本人学校だからこそ見ることができる徒競走でした。団体競技、1マイルレース、中学部のダンス、紅白対抗の代表リレーなど様々な競技が行われました。それぞれ、しっかりと練習した成果を発揮しながら、アリアンツパークという最高の舞台で競技する児童生徒の目は、きらきらと輝いていました。そして応援合戦、小学部6年生と中学部3年生を中心に長い時間をかけて準備をしてきました。小学部の児童と中学部の生徒が一緒になり、みんなで素晴らしい応援を創りあげました。精一杯声を出す子どもたちの姿に感動を覚えました。

運動会での経験、思い出を胸に、これからもさらに伸び続けてほしいと思います。保護者の皆様の様々なご協力と温かいご声援に心から感謝申し上げます。

現地校交流 (中学部3年)



7月17日(水)、現地校交流でヒンチリーウッド校を訪問しました。ホールで現地校の生徒と対面した後、グループごとに色々な授業(アクティビティ)に参加させてもらいました。

家庭科では、本格的なスコーン作り体験や、美術では、想像力を膨らませる作図を行いました。スペイン語の授業や、保健体育でのラウンダース(球技)など、ほとんどの生徒が今まで体験したことがないことに挑戦する場面もありましたが、ヒンチリーウッド校の生徒に教えてもらいながら楽しく体験を終えることができました。何より、手取り足取り教えてもらったことで、生徒同士の交流もより深まったようでした。また、カフェテリアで注文して食べるランチなど、現地校での学校生活も楽しむことができました。1日という限られた時間ではありましたが、生徒たちは充実した時間を過ごすことができました。